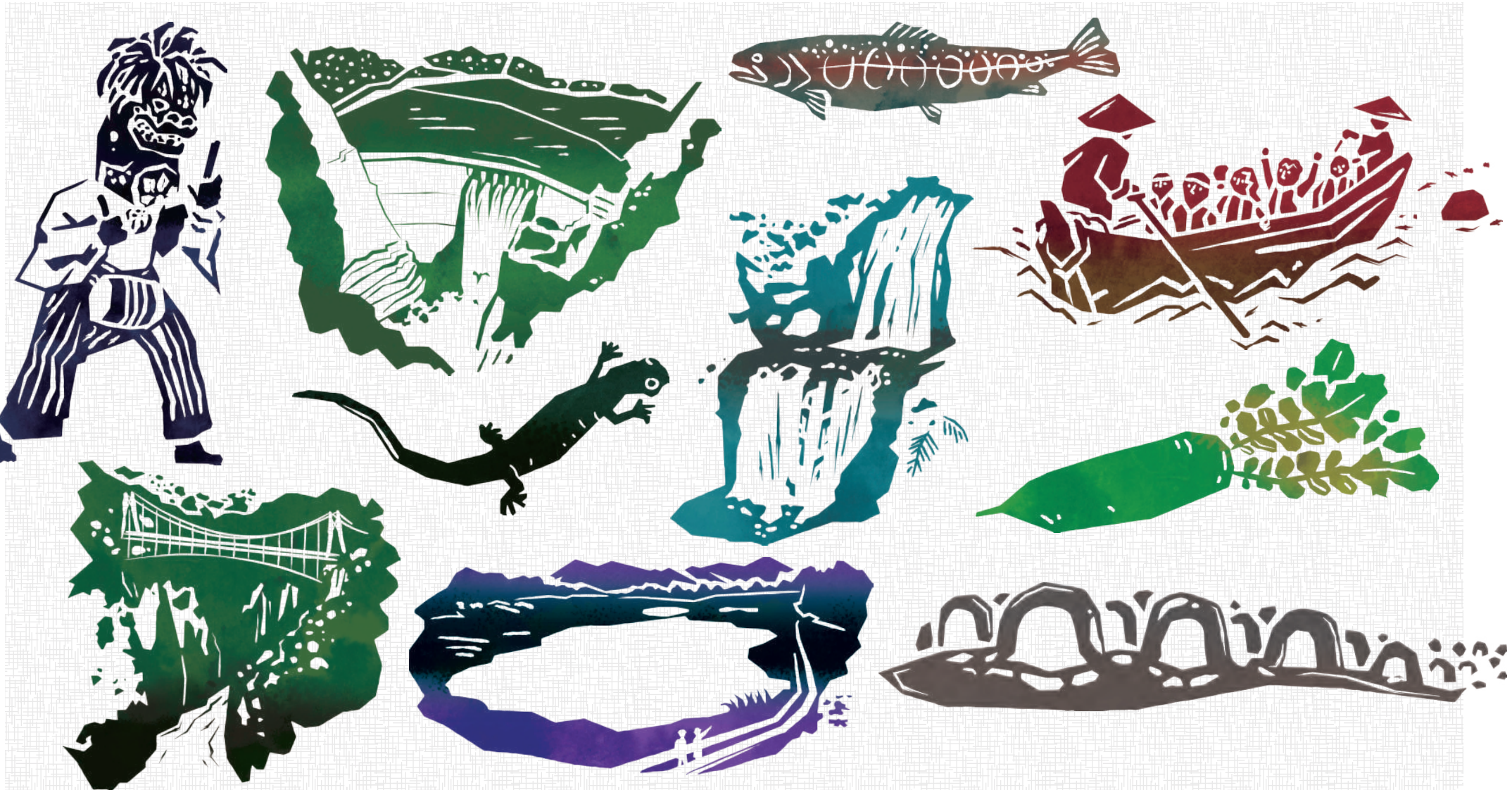


きぬがわ宝物語

鬼怒川を創る地域の自然や文化をミライへつなぐストーリー集



日光国立公園鬼怒川地域インタープリテーション全体計画

はじめに

「鬼怒川」と聞いて、あなたは何を思い浮かべるでしょうか。
温泉地、溪谷、あるいは訪れたときの旅の記憶かもしれません。
もしくは、暮らしの中で見慣れてきた風景かもしれません。

「鬼怒川」と聞いて、多くの人が思い浮かべるのは、鬼怒川温泉周辺の景色ではないでしょうか。そこは、日光国立公園の一部である鬼怒川地域の中でも、藤原エリアに含まれる場所です。

関東の奥座敷として知られるこのエリアは、長く多くの人に親しまれてきました。
温泉に浸かり、山の景色を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごす。
そんな旅の思い出を持つ方も多いのではないのでしょうか。

けれど、日光国立公園鬼怒川地域には、まだまだ知られていない物語があります。
山々に囲まれた土地では、人々が自然と向き合いながら暮らしを営み、山の恵みを受け取り、川とともに生きてきました。

集落ごとに育まれてきた文化や知恵、街道を通して行き交った人々の交流。そうした長い時間の積み重ねが、この地域ならではの風景と暮らしを形づくっています。

一方で現在、この地域を訪れる多くの人は、温泉に浸かり、食事を楽しみ、翌朝には帰路につきます。地域の歴史や文化、自然の物語に触れる機会は、まだ十分とは言えません。

鬼怒川地域（藤原エリア・栗山エリア）では、地域の魅力を見つめ直し、この土地に息づく物語を整理する取り組みを進めてきました。「きぬがわ宝物語」は、その考え方をもとにまとめたものです。

観光パンフレットとは異なり、宿泊施設や観光施設、飲食・物産・交通事業者など、訪れる人と接する機会のある方々が地域の物語を共有し、それぞれの立場で語り伝えていくためのストーリー集です。

あなたがこれまで抱いていた鬼怒川のイメージが、このストーリー集を読み終えるころには、少し違って見えているかもしれません。

鬼怒川地域の本当の豊かさと宝に出会うために。

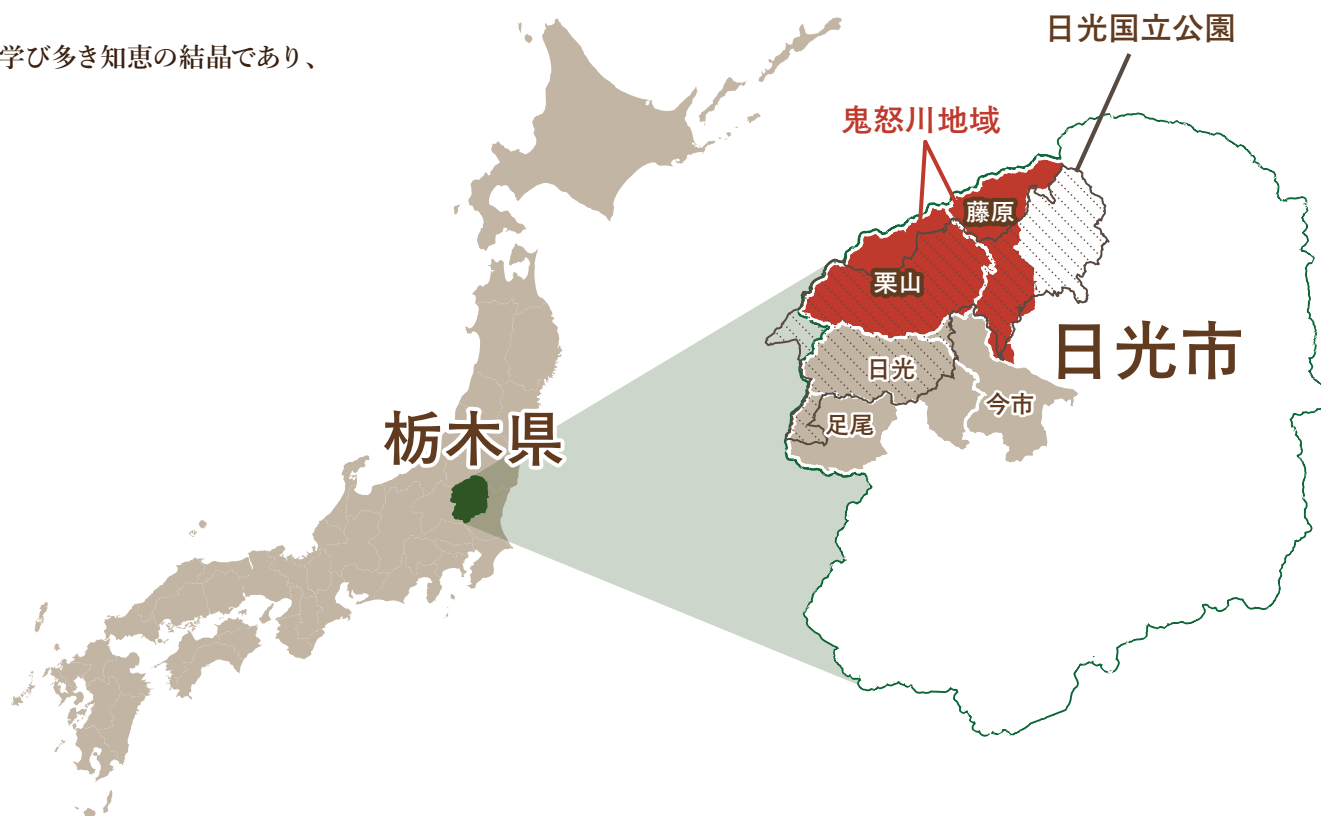


日光国立公園鬼怒川地域について

鬼怒川地域は関東地方の奥座敷。幽玄な山々が連なり、美しい渓谷をはじめとした豊かな自然に恵まれたこの地は、主要都市を潤す水源の一つでもある。山から流れる水流は多くの水力発電施設によって電力を生んでおり、実は多くの人々の暮らしを支えている地域だ。そこに至るには、暴れ川「鬼怒川」を治水してきた人の営みと、これまで高めてきた技術が必要不可欠であった。

技術により開かれる一方で守られ続けてきた昔ながらの山での暮らし。鬼怒川地域の人々は、ひたすらに圧倒される雄大な自然に囲まれ、温泉など大地の恩恵と山の恵みに感謝し豊かに暮らしてきた。山深い地形により個々の文化形成が独自になされた地域だが、古くから確かに人々の行き来があり、街道によって会津や日光などとも結びついたことで、さらに歴史・文化に深みが生まれている。

大自然とともに生きてきた個々のエリアの先人の暮らしぶりは、学び多き知恵の結晶であり、未来に伝えたい価値がある。



もくじ

個性豊かなエリアごとの紹介

| | |
|------------------------|---|
| 藤原エリア・栗山エリアの紹介 | 5 |
| 藤原エリア 鬼怒川・川治 | 6 |
| 藤原エリア 五十里・三依・高原 | 7 |
| 栗山エリア 野門・土呂部・湯西川 | 8 |
| 栗山エリア 川俣・奥鬼怒 | 9 |

鬼怒川地域紹介マップ

| | |
|-------------|----|
| 温泉編 | 12 |
| 川とダム編 | 13 |

鬼怒川地域 五つの物語

| | |
|--------------------------|----|
| 第一話 流れて交わる水と人々 | 15 |
| 第二話 雄大な大地に寄り添う人々 | 19 |
| 第三話 大地の熱が生む憩いの湯治文化 | 23 |
| 第四話 村の独自性と大切にされた交流 | 27 |
| 第五話 地形を生かし、命を尊ぶ文化 | 31 |

ミライに残したい宝物

| | |
|------------------------------|----|
| 自然と共生してきた人々の心が宿る暮らしや文化 | 36 |
| 地域を愛する私たちからミライへのメッセージ | 37 |

| | |
|---------------------------|----|
| インタープリテーション全体計画について | 39 |
|---------------------------|----|

個性豊かなエリアごとの紹介

くりやま

栗山エリア

鬼怒川源流の地域で、奥深い山々に抱かれ、水とともに暮らしを築いてきた。また、平家落人や、徳川家康御神体の隠れ里としての伝説も残るエリアでもある。

厳しい山での暮らしを豊かに生き抜く知恵や風習は、今でも受け継がれ、野門、土呂部、湯西川、川俣、奥鬼怒をはじめ、それぞれの集落が、個性豊かに歴史を刻んでいる。



獅子舞 (栗山エリア)



瀬戸台峽 (川俣)



サンショウウオ (奥鬼怒)



鬼怒沼 (奥鬼怒)



かまくら祭 (湯西川)



川治ダム (川治)



ニッコウイワナ



太閤下ろしの滝 (高原)



高原大根 (高原)



鬼怒川ライン下り (鬼怒川)



藤原エリア

藤原エリアに属する集落は、鬼怒川・川治という二つの温泉地を含んでいる。

会津西街道に連なる宿場町、三依・五十里・高原などが重なり、地域は成り立ちの異なる「物語の束」を形づくってきた。

溪谷が刻んだ景観、鶏頂山・高原山の稜線、清流が育む恵みが、暮らしと旅の文化を支えている。

鬼怒川・川治



鬼怒川 きぬがわ

鬼怒川温泉は、はじめから誰もが自由に入れる場所だったわけではない。江戸時代・元禄4年(1691年)に湧き出した湯は、日光神領に属し、日光山の僧侶たちが湯場として利用する特別な温泉だった。明治の変化の中で広く開かれ、大正期には水力発電の開発や鉄道整備によって人の行き来が生まれる。昭和期には特急列車の運行と高度成長の波に支えられ、鬼怒川温泉は関東有数の温泉観光地へと姿を変えていった。静かな湯場から、人々が集い、語り、心と体をほぐす場所へ。鬼怒川温泉は、時代ごとに求められる役割を引き受けながら、形を整えてきた温泉地である。

～象徴的な資源～



龍王峡

その他の象徴的な資源：鬼怒川温泉神社・ライン下り・ふれあい橋・楯岩大吊橋

川治 かわじ

五十里ダムや川治ダムの麓、美しい川に寄り添うように広がる川治エリア。享保8年(1723年)の五十里大洪水の後、筏で木材を運ぶ人々によって温泉の湧出が見出されたとも伝えられている。鬼怒川温泉が広く知られるようになった時代と重なり、人々に開かれながら、4つの源泉を持つ湯治の地として静かに歩んできた。やがて巨大ダムの建設や野岩鉄道の開通により、人の往来は大きく変化する。泉質は弱アルカリ性単純温泉。「傷は川治、火傷は滝」と称されるように、長く湯に浸かり、身体を整える時間が大切にされてきた。温泉地でありながら宿場町の面影を持ち、湯とともに人の時間が積み重ねられてきた場所である。

～象徴的な資源～



カヌー

その他の象徴的な資源：川治ダム・フライフィッシング・薬師の湯・魚のつかみ取り

高原・三依・五十里



高原 たかはら

会津西街道の歴史と、高原地形が育んできた営みが交差する高原。土砂災害により会津西街道の通行が難しくなった時代、高原は人と物の流れを受け止める「宿」として機能した。高原新田宿と呼ばれたことが、始まりとされている。旧高原問屋敷跡などが、往時の役割を今に伝える。背後には高原山が連なり、鬼怒川と箒川に挟まれた二つの山塊からなり、最高峰は釈ヶ岳。冷涼な気候と高原ならではの地形は、野菜栽培をはじめとする暮らしのかたちを育んできた。街道の記憶と高原の自然条件が重なり合い、環境に応じた生き方が選り取られてきた土地である。

～象徴的な資源～



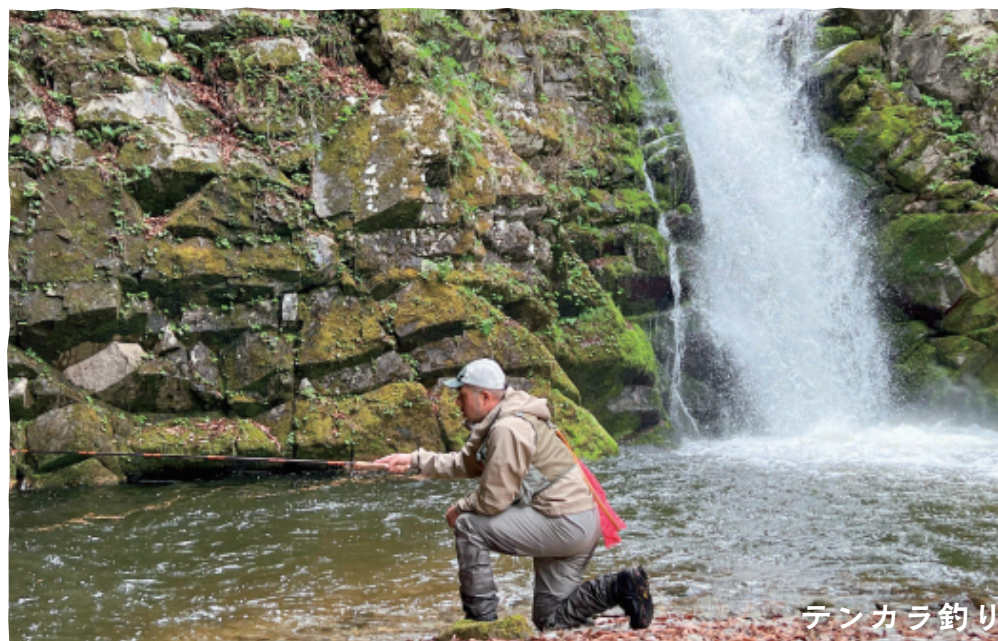
エーデルワイススキーリゾート

その他の象徴的な資源：高原野菜・日塩もみじライン・高原問屋敷跡・太閤下ろしの滝

三依・五十里 みより・いかり

三依と五十里は、鬼怒川沿いに開け、会津西街道の往來を支えてきた地域の要所である。天和3年(1683年)の大地震によって川がせき止められ、集落が湖底に沈んだこともあった。人々は水と向き合い、移り住みながら、生業をつなぎ直してきた。近代にはダム建設という選択を受け入れ、暮らしと風景は大きく姿を変えている。険しい山々と雪深い気候がもたらす清冽な水は、暮らしの基盤であった。溪流とともに技や生業が育まれ、川魚の養殖やわさび栽培など、水を生かした営みが続いてきた。近年では溪流釣りの地として整備が進み、川と向き合う文化が今に引き継がれている。

～象徴的な資源～



テンカラ釣り

その他の象徴的な資源：上三依水生植物園・わさび・三依鱒・五十里ダム

湯西川・土呂部・野門



湯西川 ゆにしがわ

湯西川は、平家の落人伝説が語り継がれる、山深い隠れ里である。1185年、壇ノ浦の戦いに敗れた平家の一族がこの地に身を寄せたと伝えられる。人目を避けながら、静かな暮らしを営んできた。やがて温泉が見いだされ、湯は身を癒すだけでなく、日々を支える拠りどころとなった。「鶏を飼わない」「こいのぼりを上げない」といった風習には、過去の記憶とともに生き抜いてきた人々の選択が映し出されている。湯西川は、伝説と暮らし、湯の力が交差する場所である。

～象徴的な資源～



かまくら祭

その他の象徴的な資源

平家の里・温泉・囲炉裏料理・道の駅湯西川

土呂部 どろぶ

土呂部は、福島県境の峠手前、標高約 900メートルのすり鉢状の地形に広がる集落である。奥深い山間に平坦地が残る珍しい地形で、冷気が溜まりやすく、厳しい寒さを生み出している。江戸時代から住み始めた人々は、平地と周囲のなだらかな丘を半自然草原（採草地・茅場）として手入れしてきた。草原は、日々の暮らしを支える糧だった。人の関わりによって成り立つ景観で、茅ボッチが並ぶ里山の風景は、未来へ引き継ぐ文化として守られている。

～象徴的な資源～



半自然草原

その他の象徴的な資源

大滝のプレミアムヤシオマス・ミズバショウ自生地

野門 のかど

野門の起こりは定かではないが、古くから交易の途中に人が立ち寄る場所として、宿の文化が育まれてきた山里である。江戸末期、戊辰戦争の混乱の中、日光東照宮ゆかりの御神体（御神像）をひそかに安置した。威光を守り伝えてきた出来事は、今も語り継がれている。栗山東照宮に伝わる歴史が、野門を「家康の里」と呼ぶ由来となった。通り過ぎる宿ではなく、腰を落ち着けて滞在する場として、民宿を中心に山里ならではのもてなしが今も受け継がれている。

～象徴的な資源～



女将と囲炉裏料理

その他の象徴的な資源

栗山東照宮・布引の滝 (2026年3月現在通行できません)

川俣・奥鬼怒

川俣 かわまた

近代のダム建設を契機に人の往来が生まれ、工事関係者を迎える温泉地として形づくられてきた川俣。1966年の川俣ダム完成を背景に、民宿が点在し、川俣温泉郷として昭和期に発達した。古来から暮らしてきた人々の中には、山の自然を知り尽くしたマタギとして生活文化を守り伝えてきた人々がいる。集落には血縁を持たない親子の契を結ぶ親分子分制度をはじめ、結束を保つための伝統行事や独自の風習が受け継がれてきた。厳しい自然の中で生き抜くため、助け合いは暮らしの前提として根づいている。川俣には、温泉・川・山の恵みを一体として受け止めてきた、生きるための知恵が今も息づく。

～象徴的な資源～



瀬戸合峽

その他の象徴的な資源：川俣ダム・湯沢噴泉塔・温泉・元服式・西澤金山跡



奥鬼怒 おくきぬ

奥鬼怒は、鬼怒沼という水源へとつながる登山道の途中で温泉が見つかったことに始まる温泉地である。険しい山道に阻まれ、現在も一般車両の乗り入れはできない。

鬼怒沼山麓に湧く温泉郷には、八丁の湯、加仁湯、手白澤温泉、日光澤温泉の四つの宿が点在し、「奥鬼怒四湯」と呼ばれてきた。山の恵みを生かした独特の食文化も育まれ、熊や鹿、サンショウウオなどを用いた料理が伝えられている。歩いて向かう道のりそのものが滞在となり、奥鬼怒は人里離れた桃源郷のような場所として、訪れる人の歩みに寄り添ってきた。

～象徴的な資源～



鬼怒沼

その他の象徴的な資源：奥鬼怒の4つの宿・米瀑・高山植物・ヒナタオソロシの滝・オロオソロシの滝



鬼怒川地域紹介マップ

鬼怒川地域紹介マップ～温泉編～

鬼怒川地域の代表的な温泉地をご紹介します。

日本有数の温泉地から一般車立入禁止の秘湯まで、個性豊かな温泉地が、日々の疲れを癒やしてくれる。

秘湯

奥鬼怒温泉

車では辿り着けない、鬼怒川源流の秘湯群。
山を越えて出会う湯が、特別な滞在体験を生む。

泉質 塩化物泉・硫黄泉・アルカリ性単純泉



隠れ里

湯西川温泉

平家落人伝説が残る、隠れ里の温泉地。
伝承と湯治文化が重なり合う、時間の深い場所。

泉質 アルカリ性単純泉



足湯スポット

湯西川水の郷

足湯スポット

道の駅湯西川

足湯スポット

かわじいの湯 結びの湯

足湯スポット

鬼怒子の湯

足湯スポット

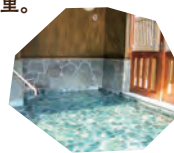
鬼怒太の湯

大温泉地

鬼怒川温泉

日光の湯治文化を今に伝える、関東屈指の温泉地。
観光と癒やしが融合し、時代ごとに姿を変えてきた。

泉質 アルカリ性単純泉



無料の 足湯スポット

- 一. 鬼怒太の湯 (鬼怒川)
- 二. 鬼怒子の湯 (鬼怒川)
- 三. かわじいの湯 (川治)
- 四. 結びの湯 (川治)
- 五. 道の駅湯西川 (湯西川)
- 六. 湯西川水の郷 (湯西川)

鬼怒川地域紹介マップ～川とダム編～

大地から染み出してきた水は、川・滝・そしてダム湖というようにかたちを変えて今も流れ続けている。
この広さで、9つものダムがあるのは珍しく、ダムでのアクティビティも行うことができる。



水に関するアクティビティ



カヌー



SUP



キャニオニング



ライン下り



釣り



ラフティング



水陸両用バス

4ダムスタンプラリー

五十里ダム・川俣ダム
湯西川ダム・川治ダム

4ダムのスタンプをすべて獲得すると「オリジナルダムホルダー」がもらえます。

鬼怒川地域の五つの物語

第一話 流れて交わる水と人々

大地から滲みだした源流の一滴は、
重なり合って大きな流れとなり、
多様な命を育む水へ。

電気という光へと姿を変えながら、
古来より何千年も、
人々を支え続けている。



鬼怒沼

キーワード 水・飲料水・ダム・治水技術

源 泉 と 流 れ

一滴が、流域をつくった

大地から染み出した一滴の清らかな水は、鬼怒沼に集まり、やがて源流となって流れを形づくる。周囲の支流と合流しながら力を増した水は、鬼怒川という一本の流れとなって山を下り、平野に出るにつれてさらに多くの川と交わっていく。最終的な流れは利根川へと注ぎ、大海へと至る。長い旅の途中で、水は人々の飲み水となり、田畑を潤し、生き物の命を支える存在であり続けてきた。



鬼怒川

ダム と 発 電

暴れ川と向き合う、人の知恵

鬼怒川は、たびたび氾濫を起こす暴れ川であった。まるで鬼が怒るかのような激しい流れから、名が生まれたとも伝えられている。人々は川と対立するのではなく、共に生きる道を選んできた。洪水を防ぐためにダムや堤防が築かれ、治水の技術が磨かれていく。水の力を電気という恵みに変える発電技術も育まれてきた。関東有数の暴れ川と向き合い、流れを治め活かしてきたダム群は、人々の知恵の結晶である。



川治ダム

第一話で体験してほしいこと 命の水と偉大な川の流れるを感じる体験

其の一

水陸両用バスでダムへの迫力を目の当たりにする

エリア：湯西川



時期 4月下旬 11月下旬(冬季休業)

場所 道の駅湯西川・湯西川水の郷(土日のみ)

内容 湯西川ダム・川治ダムの2ルート。小さなお子さんからお年寄りまで参加可能。ダムにダイブが楽しい!

所要時間：約60分

問合せ先 湯西川ダックツアー

其の二

鬼怒川のラフティングで全身で自然を感じる

エリア：鬼怒川



時期 4月～11月

場所 鬼怒川エリア

内容 ゴムボートにみんなで乗り、鬼怒川の急流を下るアクティビティ

所要時間：約3時間(ガイド同行)

問合せ先 NAOC(ナオック)、日光那須アウトドアサービス、eラフティング

其の三

氷瀑ツアーに参加して、凍った滝に大接近する

エリア：奥鬼怒



時期 1月中旬～2月下旬（気象条件による）

場所 奥鬼怒エリア

内容 凍りついた滝の近くまで歩き、氷の造形美を間近で観察
所要時間：約4～6時間（ガイド同行）

問合先 加仁湯・八丁の湯

其の四

ダム見学をして、ダムの数の多さと役割について学ぶ

エリア：湯西川・五十里・川俣・川治・黒部・土呂部・小網



時期 通年（冬季一部制限あり）

場所 湯西川・五十里・川俣・川治・黒部・土呂部・小網ダム

内容 堤体見学や資料展示を通して治水・発電の仕組みを知る
湯西川・五十里・川俣・川治には資料館あり
所要時間：一箇所あたり約30分

問合先 鬼怒川ダム統合管理事務所

第二話 雄大な大地に寄り添う人々

悠久の水の流れに削られた溪谷と、
その大地に寄り添い生きてきた人々。

自然とともに生きる記憶は、
私たちの奥底に眠る、
原始の暮らしへの敬意を
静かに呼び起こす。



瀬戸合峽

キーワード 溪谷・景勝地・大自然・川魚・生命の営み・狩猟

雄大な な 溪谷

削られ、育まれてきた風景

龍王峡や瀬戸合峡に見られる切り立った岩肌は、火山活動が生んだ大地を、悠久の時を経て水が刻み続けてきた証である。特に龍王峡では、およそ2200万年前に海底火山の爆発で噴出した安山岩～緑色凝灰岩～流紋岩と、種類・年代の異なった岩石の層が、鬼怒川の豊富な水による浸食作用によって見付き、このエリアの大地の成り立ちにおける歴史を記している。



龍王峡

原始の 営み

自然を知り、敬い、生きる

大自然とともに生きる知恵を受け継いできた人々は、征するのではなく、深く知ることによって生きてきた。川の流れや生き物の習性を読み解き、山と川の恵みを分かち合い、祈りとともに日々を重ねてきた達人たちである。大地の力を知り、敬い、感謝する心は、暮らしに息づく知恵として受け継がれてきた。そうした営みは、「人は何と向き合いながら生きるのか」を静かに問いかける。



狩猟

第二話で体験してほしいこと

雄大な自然を全身で感じ、命の営みと循環に思いを馳せる体験

其の一

川俣ダムでわたらっしゃい吊橋を渡り、
落差100mの壮大な溪谷や紅葉の景色を味わう

エリア：川俣



時期 紅葉時期は10月下旬から11月中旬頃(12-3月閉鎖)

場所 川俣ダム

とちぎの景勝100選にも選ばれる、落差約100mの溪谷を吊橋で横断し絶景を望む

遊歩道開放時間 9:00～16:00(最終入場15:00) 所要時間：散策30～60分

其の二

龍王峡ハイキングで花や紅葉、溪谷美を楽しむ

エリア：鬼怒川(龍王峡)



時期 通年(積雪時注意)、紅葉時期は10月下旬～11月上旬

場所 龍王峡

内容 奇岩と溪谷を巡る散策路を歩き、季節の自然を観察
所要時間：コースにより1～3時間

問合先 紅葉時期は10月下旬から11月中旬頃(12-3月閉鎖)

其の三

抜群の透明度とロケーションの中で溪流釣りを体験する

エリア：三依



時期 3月～11月

場所 三依溪流釣り場（入山沢特別漁場）

内容 溪流釣り（餌釣り・テンカラ・フライフィッシング・ルアーフィッシング） 食事（釣った魚を塩焼きや刺身で食べることができます）※有料

釣れる魚：イワナ・ヤマメ・ニジマス

問合先 三依溪流釣り場

其の四

鹿革クラフト体験で、有害駆除される生き物の命を考える

エリア：鬼怒川



時期 通年（要予約）

場所 MOMIJIKA

内容 鹿革を使った小物制作を通して命の循環を学ぶ
所要時間：2.5時間/5時間

問合先 MOMIJIKA

第三話 大地の熱が生む憩いの湯治文化

かつて特権階級だけのものではあった温泉は、時を経て、人々の憩いの場となった。

大地の奥から湧き出す湯は、地層によって表情を変え、人を楽しませながら、土地の歴史を、つぶさに伝えている。



奥鬼怒温泉

キーワード 温泉・湯治・祭り・伝統行事

温泉の大衆化

癒やしが共有される場へ

温泉は、かつて特権階級に限られた存在であった。江戸時代に発見されながら、一定の身分の人々だけに秘匿されてきた湯である。やがて時代が進むにつれ、湯は立場を越えて人々に開かれ、湯治や娯楽の場として広がっていった。土地ごとに異なる地層が生む泉質は、地域の個性や歴史を静かに映し出す。人々の心身を癒やし、温泉地ならではの文化を育み、温かな交流を生み出す場として続いている。



鬼怒子の湯

伝統を後世へ

湯とともに灯る熱

温泉地の賑わいは、湯そのものだけで生まれたものではない。龍王祭やかまくら祭は、季節を彩りながら、土地の熱を生み続けてきた。賑わいを未来へとつなごうとする、人々の願いが込められている。一方、獅子舞や元服式など古くから受け継がれてきた季節行事は、人々の結束を確かめ合う大切な営みである。伝統の灯を後世へと残そうとする祈りが、強い輝きとなって現代に問いを投げかける。



湯西川温泉かまくら祭

第三話で体験してほしいこと 特別な湯の記憶を、未来へつなぐ願いに触れる体験

其の一

鬼怒川温泉街を歩き、かつて大名や僧侶だけが訪れた温泉地の歴史の変遷を想像する

エリア：鬼怒川温泉



時期 通年

場所 鬼怒川温泉街

内容 温泉街を散策し、かつての湯治文化に思いを馳せる

所要時間：1～2時間

其の二

秘湯の奥鬼怒温泉に浸かり、自然の中にある温泉の原初的な姿を感じる

エリア：奥鬼怒



時期 通年（冬季アクセス注意）

場所 各宿（加仁湯、手白澤温泉、日光澤温泉、八丁の湯）

内容 山奥の露天風呂で自然と一体になる湯浴み体験

所要時間：日帰り～宿泊（日帰り温泉は各宿要確認）

其の三

龍王祭に参加し、温泉街の祈りと熱気を体感する

エリア：鬼怒川



時期 7月下旬開催

場所 鬼怒川温泉街

内容 万灯神輿や女樽神輿の渡御を見守り、山の神への祈りと夏の
のにぎわいを感じる

所要時間：夕刻～夜

其の四

湯西川温泉かまくら祭で雪深い温泉地ならではの景色を楽しむ

エリア：湯西川



時期 1月下旬～2月下旬

場所 湯西川温泉（沢口河川敷・平家の里）

内容 雪灯りに包まれた幻想的な温泉街を歩く

所要時間：約1～2時間

第四話 村の独自性と大切にされた交流

奥深い山間で育まれてきた集落の
結束と、近代の交通がもたらした
人の往来。

距離が縮まった現代だからこそ、
それぞれの土地が守ってきた
独自性と、交流のあり方が、
静かに問い直されている。



獅子舞

キーワード 交流・古道・人のあたたかさ・鉄道・文化の存続

独自と交流

山間を生き抜いてきた知恵

奥深い山間地域の集落では、結束力を高めるための風習や制度が受け継がれ、土地ごとの独自性が育まれてきた。人々は先人が切り開いた道を踏み固め、ときに新たなルートを見いだしながら、交易や交流を重ね、山間を生き抜いてきたのである。そのたくましさから生まれた懐の深さ、人を受け入れる温かさは、訪れる旅人の心に今も強い印象を残している。



川俣の元服式

変化と継承

距離が縮んだ時代に考えること

山麓地域では、近現代の水力発電施設の建設にともない鉄道が整備され、交易や移動は大きく広がった。人や物の流れは周辺地域の経済や暮らしを変え、山間の文化との距離を縮めていったのである。一方で、今もなお秘境として保たれている地域も存在する。利便性がもたらした変化と、守られてきた環境の両方が共存し、私たちに多様な学びを投げかけている。



五十里ダムと野岩鉄道

第四話で体験してほしいこと

鉄道で秘境へ向かい、大自然に生きる人々の個性と温かさに触れる体験

其の一

野門の民宿に宿泊し囲炉裏料理と女将さんとの交流を楽しむ

エリア：野門



時期 通年（冬季積雪注意）

場所 野門地区（3軒のみ）

内容 囲炉裏を囲み、山の恵みを味わいながら地域の暮らしの話に耳を傾ける

所要時間：1泊2日～

問合せ先 大野屋・一乃屋・福富士

其の二

湯西川温泉の平家の里で平家落人の暮らしを想像する

エリア：湯西川



時期 通年

場所 湯西川温泉 平家の里

内容 平家の落人伝説が残り、独特の風習を継承する湯西川地区の生活の一端を伝える施設をゆっくり散策する

所要時間：30分～1時間

其の三

SL大樹に乗車し、蒸気機関車の力強さと歴史を体感する

エリア：鬼怒川



時期 通年 (運行日要確認)

場所 東武鉄道下今市駅～鬼怒川温泉駅

内容 蒸気機関車の音と振動を体で感じる列車旅

所要時間：約 35 分

問合先 東武鉄道

其の四

野岩鉄道に乗車し、山あいの風景と人の営みを感じる

エリア：野岩鉄道沿線



時期 通年

場所 野岩鉄道新藤原駅～会津高原尾瀬口駅

内容 山あいを走るローカル線に乗り、流域の風景と人の営みを眺める

所要時間：区間により異なる

第五話 地形を生かし命を尊ぶ文化

大きな標高差と複雑な地形が生む、
多様な気候と植生。

違いを読み取り、
ありのままを生かすことで、
この地ならではの暮らしと食は育ま
れてきた。

それは、生きるための知恵であり、
命を尊ぶ心のあらわれでもある。



囲炉裏料理

キーワード 食・暮らし・地形

気候を味方に

地形を読む暮らし

鬼怒川温泉周辺から鬼怒沼の水源域へと流れを遡ると、標高差はおよそ1700メートルに及ぶ。土呂部のカルデラ地形は冬に冷気がたまり、標高900メートルでありながら氷点下15度に達し、白銀の世界が広がる。また、なだらかな地形には人の手によって守られてきた半自然草原が広がる。高原野菜の栽培など、気候を制するのではなく味方につける工夫が、暮らしを支えてきたのである。



土呂部の茅ポッチ

豊かな食卓

命をいただくということ

山間部では、田畑を広く持つことが困難な土地も少なくない。それでも人々は、山や川の恵みを生かし、無駄なく、おいしく食べる工夫を重ねてきた。米が作れない地域の最上のもてなしは、香り高い蕎麦と季節の恵みである。囲炉裏料理や川魚の炭火焼きには、客を迎える心と、命への敬意が込められている。同じ大地に生きる動植物への感謝とともに育まれてきた食文化は、今も大切に受け継がれる。



鱒の塩焼き

第五話で体験してほしいこと 土地ごとの気候や植生、暮らしを肌で感じる体験

其の一

トレッキングで標高2000m超の高層湿原を訪れ、
高山植物を観察する

エリア：奥鬼怒



時期 6月～10月

場所 鬼怒沼湿原

内容 高山植物が咲く湿原を歩き、標高の高さが生む自然環境を体感する

所要時間：往復約6～8時間

其の二

高原地域で栽培されるほうれん草を食べて、
冷涼な気候がもたらす野菜の甘みを味わう

エリア：高原



時期 夏～秋

場所 道の駅日光・だいやの森旬菜館・市内スーパー

内容 冷涼な気候で育つほうれん草を食べ、土地の味を知る

其の三

半自然草原の風景に触れ、人々が手をかけた歴史の重みや営みを感じる

エリア：土呂部



時期 春～秋

場所 土呂部

内容 人の手で美しく維持されてきた草原の風景から、人々の営みを想像する

※草原に入るには必ず許可が必要

問合せ先 日光茅ボッチの会

其の四

湯西川・川俣・奥鬼怒の宿で山菜料理や川魚料理、ジビエ料理を味わう

エリア：湯西川・川俣・奥鬼怒



時期 通年

場所 各温泉宿（湯西川・川俣・奥鬼怒）

内容 山菜や川魚、ジビエ料理を通して山と川の恵みを味わう

所要時間：1泊2日～

ミライに残したい宝物

ミライに残したい宝物

自然と共生してきた人々の心が宿る暮らし文化

自然を守り、共生していくために続けられてきた独自の文化。なくなりつつあるものも多いが、先人たちの培ってきた記憶や知恵はこの先もずっと残していきたい宝物だ。

石焼



かつて集落のお祭やみんなで集まる時には必須だったご馳走。熱しても割れない、平らな石を3時間焼き続け、その石の余熱で山菜や魚を調理するもの。みんなでワイワイ役割分担しながら石焼をするコミュニケーションも大切なものだ。

マタギ文化



山の恵みに感謝し採集、狩猟をして生きる人々の営み。山に対する深い知識と畏敬の念には、本来人が生きるために大切なものが詰まっている。

サンショウウオ漁



この地独特の漁文化。身体によい食材として捕り続けられてきた。漁場は秘匿され、静かに次の世代へと受け継がれていく。

貴重な在来生物



川魚の中でも、その地名を冠する品種はそう多くない。ニッコウイワナは日光の川の生態系に欠かせない存在であると同時に、古来よりどのような生態系が造り上げられてきたのかを知るための大切な鍵となる。主に奥鬼怒では奥鬼怒岩魚保存会が研究を続けている。

かつて山間の人々は集落の周りの草原（茅場）が広がり、茅や草を、屋根材や牛馬の飼料、畑の緑肥として利用していた。なだらかな地形にそよぐ風と揺れる茅は大変

美しい風景を作り上げている。人の手が入る半自然草原は、まさに自然と人が共生する様子を伝える宝物だ。



半自然草原の営み



温かいおもてなし



物資が少ない環境でも、山の恵みを活かして最上級のおもてなしをする工夫はこのエリアの人々の温かさを象徴している。それぞれの調理の仕方などにはよりおいしく食べる工夫が凝らされており、食べながら聞くその地域のお話もまた、良いスパイスになっている。

美しい溪流



なんととっても山々から染み出す綺麗な湧き水が大変貴重で、その美味しい水が作り出す三依の溪流は透き通り、関東一の清流として名を轟かせている。

土着の在来野菜

川俣菜をはじめとして、野門の赤ジャガイモや高原野菜などはその土地だからこそ育つ野菜である。暑さ、寒さを活かし、それぞれの地形や土壌にあわせて育てることで、この土地ならではの味が完成する。



ミライに残したい宝物

地域を愛する私たちからミライへ

冊子制作にあたってお話を伺った地域の皆様、そして制作チームから、自身が活動する地域への想いを言葉に。

人それぞれ、異なる視点での鬼怒川地域の宝を知ることができる。



小松 輝久さん

奥鬼怒温泉加仁湯 代表

私は奥鬼怒で生まれ育ち、今もこの土地で暮らしています。奥鬼怒が好きだと言ってもらえることが、うれしい。鬼怒沼湿原は日本一高い湿原として知られていますが、鹿の食害などで景色は変わりつつあります。それでも、鬼怒沼は鬼怒沼です。濁り湯や水瀑、ナイトウォークなど、ほかにはない体験があります。うちの濁り湯は日によって色を変え、同じ湯になる目はありません。温泉も景色も、一度きりです。「違う季節にも来たい」と言われると、やってきてよかったなと思っています。



塩生 康幸さん

三依溪流つり場 代表

私は三依溪流つり場で、鬼怒川上流を流れる男鹿川の水と向き合いながら働いています。三依の根っこは水です。そばやわさび、溪流魚は、源流の清らかな流れがあってこそ育ちます。男鹿川の水をそのまま取り入れて育てる「三依鱒（みよります）」も、三依ならではの恵みです。冬の厳しい寒さも大切な資源と考え、寒風にさらして熟成させる塩引きにも取り組んできました。流れを守り、活かしながら、三依の営みを次へつないでいきたいと思っています。



菅田 晃章さん

鬼怒川オートキャンプ場

私は鬼怒川温泉オートキャンプ場で日々仕事をしています。会津西街道の宿場町として栄えた藤原の町、移築の経緯をもつ温泉神社、数多くのダムが並ぶ特異な地形。山あいを流れる川とともに人の暮らしが積み重なり、今の鬼怒川が形づくられてきました。国立公園の豊かな自然だけでなく、自然と向き合いながら積み重ねてきた歴史にも大きな魅力があります。自然と人の歩みをあわせて伝えていく。そこに鬼怒川の魅力があると思っています。



飯村 孝文さん

日光茅ポッチの会 代表

私は日光茅ポッチの会で、土呂部の草原を守る活動を続けています。出会った草原の前に、残さなければならぬと感じ、2013年から取り組んできました。かつて100ヘクタールほどあった半自然草原は、いまでは数ヘクタールにまで縮小しています。人が減り、手入れをする担い手も少なくなりました。草原は放っておけば森になります。だからこそ、人の手で守り続けたい。茅を束ねた茅ポッチは、暮らしの象徴です。自然とともに生きてきた営みが、これからも続いていけばと思っています。



小栗 輝生さん

栗山史談会 事務局長

私は旧栗山村の歴史を語る活動を続けています。西沢金山には、かつて1,500人ほどが暮らしていた時代がありました。ダム建設とともに、生活は大きく姿を変えていきました。石焼きやぼんだい餅は、村の中で受け継がれてきた食文化です。富士見峠は、日光と栗山、さらに会津へと人や物をつなぐ道でした。派手な観光地ではありませんが、ここには確かに人の営みがありました。語れる人がいるうちに、少しでも知ってもらえたらと思っています。



小松 恵一さん

元川俣自治会長
ハンター

私は川俣で生まれ育ち、鬼怒川の最上流に近い土地で暮らしています。長く猟に関わってきました。若い頃、「動物より利口にならなければ捕れない」と先輩に教えられ、風向きや足跡を読みながら山に入りました。鹿や猪の巻き狩りは一人ではできません。声を掛け合い、山を囲み、獲ったものは分け合う。川俣のやり方です。元服式や石焼きも、暮らしの中で続いてきました。自然と向き合い、仲間と支え合う積み重ねが、川俣の誇りだと思っています。



波木 恵美さん

鬼怒川グランドホテル夢の季 代表

私は鬼怒川温泉で宿の運営を担っています。これまで地域の魅力をどう活かすかを皆で考えてきました。これからは、お客様に実際に足を運んでいただくための仕組みづくりが欠かせません。川治や奥鬼怒など周辺地域と連携することで、この地の魅力はさらに深まり、広がっていくはず。広いエリアを巡り、多彩な体験を重ねていただくことが、地域の価値を高めることにつながります。力を合わせ、鬼怒川地域をより元気にしていきたいと思っています。



山越 祐二さん

大滝日光サーモン
有限会社大滝 社長

私は土呂部で魚を育てています。関東で一番寒いともいわれる土地で、真夏でも朝晩はぐっと冷え込む。その寒暖差と森を通った水が、魚の味をつくっています。オレイン酸に着目して育てたプレミアムヤシオマスは、「大滝日光サーモン」として広がりました。最初は誰もやらなかった魚です。毎日魚を下ろしていると、骨まで捨てるのはもったいないと感じるようになりました。釣りもただの遊びではない。魚の一生を知れば、見え方が変わる。結局、川なんじゃないかなと思っています。

冊子制作メンバーからのメッセージ

この度は、日光国立公園鬼怒川地域（藤原エリア・栗山エリア）のインタープリテーション全体計画における「きぬがわ宝物語」（以下ストーリー集）の作成にあたり、地域の皆さまをはじめ、関係各所の方々に多大なるご協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

鬼怒川流域には、温泉をはじめ、多くの自然資源と自然景観を有しているが、ビジターセンターを有していないエリアでもあります。そのため、これまでに来訪者を積極的に迎え入れる環境整備が他のエリアに比べると乏しい状況にあります。インタープリテーションという言葉にも馴染みが薄いため、ストーリー集を作成するにあたってのワークショップ開催の周知においては、地域の皆さまに関心を持っていただくことに大変苦労いたしました。

本ストーリー集は、従来の観光案内に使用されるような来訪者向けのパンフレットではありません。来訪者を迎え入れる側、つまりこの地域の宿泊施設や、観光施設、飲食・物産・交通事業者など、来訪者と接する機会がある方々に活用していただくために編集されたものです。是非、地域の方々にご一読いただき、この地域の魅力を再認識し、来訪者や次の世代に語り継いでいただければ幸いです。

今回はバージョン1として一旦完成となりますが、これで終わりではありません。これからこのストーリー集を活用し、今後は足りない情報を補ったり、新しい情報を加えたりしながらブラッシュアップさせていきたいと考えております。まずは今回のストーリー集を活用いただき、この地域のことをもっと好きになって、多くの方に伝えていただければ幸いに存じます。

鬼怒川地域インタープリテーション全体計画 地域事務局 代表 坂内 剛至



この冊子はインタープリテーション全体計画として作成されました。

インタープリテーションとは、

地域の自然や歴史、文化がもつ価値や意味を、わかりやすく、心に残るかたちで伝えることです。

鬼怒川地域は、日光国立公園の一部に広がる山深い土地です。

稜線が連なり、溪谷が刻まれ、清らかな水が絶えず流れています。

温泉の湯けむりが立ちのぼり、雄大で奥深い自然景観が息づいています。

風景の背後にある物語や、人々の営み、土地に刻まれた記憶をひもとくこと。

訪れた人と時間を共有すること。

すなわちインタープリテーションによって、この鬼怒川地域で風景の奥にある時間を伝え、

暮らしの中で育まれてきた知恵や文化を、点として紹介するのではなく、つながりのある物語として届けていきます。

誰に伝えるのか。

何を大切なメッセージとするのか。

どこで、どのように伝えるのか。

どんな体験として感じてもらうのか。

視点を整理しながら、サインや冊子、展示、ガイドツアー、体験プログラムなど、

多様な方法を用います。何気ない会話や、料理や空間のしつらえも含まれます。

目指すのは、知識を増やすことではありません。

風景の見え方が変わり、土地への理解と愛着が深まり、自然や文化を大切にしたいという気持ちが芽生えること。

地域の時間を、未来へと手渡すこと。これがきぬがわ宝物語です。

発 行 環境省日光国立公園管理事務所

制 作 鬼怒川地域インタープリテーション全体計画 地域事務局

地域事務局メンバー

- ・有限会社ネイチャープラネット
- ・一般社団法人日光市観光協会
- ・株式会社モグローカル
- ・栃木アウトドア事業振興会BERGTOAD

協 力 鬼怒川地域の皆さま

公益社団法人日本環境教育フォーラム

一般社団法人日本インタープリテーション協会

デザイン 縁-yukari-

表紙・似顔絵イラスト 渡辺祐亮